



VOL 55

2015年12月  
発行 2015年12月10日  
日本山岳会 山岳地理クラブ  
URL ● www.jac.or.jp/doukoukai/



大西山と崩壊礫保存園 (By 堀内弘栄)

日本火山の会カレンダーです。(中央構造線巡検時私が撮影したものです)

- ・撮影日時 2014年9月3日
- ・撮影地点 大鹿村中央構造線博物館のやや北500m 小渋川右岸より
- ・大西山崩壊礫保存園は昭和36年(1961年)に梅雨の集中豪雨で大規模に崩落した岩塊が当時のまま保存されているところである。中央構造線の走る長野県大鹿村の大西公園の一角にある。崩壊の前は、今の公園や小渋川になっている場所は人家が無く水田が広がっており、小渋川は山裾の岩石園の下を流れていた。崩落した岩塊が積み重なって台地が出来た。崩壊量は320万~420万立方mと見積もられている。尚、崩落した岩石は領家帯花崗岩やそれらに変質したマイロナイトから成る。

### 絵葉書で見る筑波山の一等三角点

遠山元信

古くから歌に詠まれ絵にも描かれてきた茨城県の筑波山は、関東を代表する名山である。関東平野の中に独特な双耳峰の姿で鎮座し、一度知れば山座同定は容易で双耳峰の西側ピークが男体山(871m)、東側ピークが女体山(877m)であり、この女体山本殿裏の岩場上一等三角点本点(875.7m)の標石がある。山頂付近は岩場で狭く、休日には危険なほど混雑していることがある。平成になり、東京の古本屋で筑波山の一等三角点標石が写っている絵葉書を見つけた。その時はまさかと思ったが、昔の絵葉書は意外とマニアックなピンポイントの内容の絵葉書が多い。それが写真1の絵葉書である。その葉書から女体山本殿の後ろに一等三角点標石はもちろんのこと、傍に四ヶ所の2本ずつの金属アンクルが写っていた。その



写真1. 筑波山一等三角点と櫓基礎(4ヶ所) 撮影は昭和8年7月以前

角度から三角点上を頂点にしていることが判り、俗にいう三角点櫓(規標)の基礎だった可能性がある。そこで明治の古い三角点の記を確認したが、そこに櫓は金属製だったとは記録されていない。写真2は位置的關係を意識して現在の状況を撮影した写真である。これは平成16年9月に撮影した。この写真1と写真2は『地図中心』(417号 2007年6月号)で紹介されたのでご存知の方もいるのではないだろうか。



写真2. 筑波山一等三角点と櫓基礎跡穴あり 撮影は平成16年9月

その後も筑波山の絵葉書に注意していたところ、同様な絵葉書を何枚も見つけた。真剣になって探せば、他にも存在するのではないだろうか。絵葉書は同じ筑波山の数ヶ所の葉書で一組になっており、内容はほとんど同じである。しかし、ここで紹介する

絵葉書の中で唯一筑波山ケーブルカーが紹介されていない絵葉書がある。それが写真3である。筑波山ケーブルカーは大正14年10月から開業し、全長1,634m、これは全国で三番目に長い距離であり、関東地方では二番目にできたケーブルカーである。それがセットの中に含まれていないとなると抜き取られていなければ大正14年10月以前の絵葉書となる。一番古いと思われる絵葉書が皮肉にも一等三角点の彫刻の文字まで読み、一ヶ所だけであるが檜の基礎辺りが一番判る絵葉書だ。他の絵葉書は記念スタンプ等の日付が有る事と筑波山ケーブルカーの絵葉書が混ざっていることから簡単に昭和になってからの絵葉書であることが判明した。



写真3. 筑波山一等三角点と檜基礎(1ヶ所)  
撮影は他の資料から大正時代か



写真4. 筑波山一等三角点と檜基礎あり。  
撮影は昭和11年5月



写真5. 筑波山一等三角点の檜基礎あり。  
撮影は昭和12年5月

った。  
この檜と思われる金属アングルのところは写真2をよく見ると判るが、アングルを抜いてコンクリートで埋められているが穴になって盛り上がっている。現在の女体山本殿は昭和54年に建て替えられたとのことであった。

写真4は一枚の葉書に男体山と女体山の両本殿が紹介されているため写真が小さく拡大してある。

写真5の絵葉書には残念ながら一等三角点らしき標石は写っていない。しかし他の絵葉書よりも写りは良いし、三角点檜の基礎のアングルが二ヶ所、もう一つ真ん中の小さいアングルは檜への金属はしごのアングルだった可能性がある。写真3の人間の足元にも

写真3は、女体山本殿背面が千社札が凄く、他の写真には無いか張ってあっても目立つような状況ではない。さらに写真1と写真3には女体山本殿を囲むような柵が無く、写真3の左下に延びる屋根の下に縦の板が張り付けてある壁のような物が写真3以外には壁でなく抜けており写真5がその状況が判りやすい。以上の事からも写真3の絵葉書が一番古いのではないかと判断するに至

写っている。撮影は他の葉書にあった消印から昭和12年5月3日以前となる。

筑波山の女体山は岩場上の狭い場所のため、撮影された方向からでない女体山本殿が写真1ならず、そのアングルの中に丁度一等三角点標石が存在するというベストポジションが幸いし、絵葉書内に紹介されていたと判断した。こんな恵まれた三角点、他に存在するだろうか。気になっている。

行ってきました

饗庭野基線探索(プラス1)の旅

渡辺 眞一

私は今回が初めての基線探索となる。今までも参加したかったが、なかなか日程が合わず断念してきた。念願の初参加であり、ワクワクしながら10時前に大津駅に降り立った。この時間に間に合わせるには、西武池袋線の始発に乗らなければならなかった。新幹線の車中ではぐっすり寝てきた。京都駅に9時半に到着。直ぐに駅蕎麦ならぬ駅うどん屋に飛び込む。関西育ち人としては、こちらの方に来たとき少しでもチャンスがあればうどん屋に直行するクセがついている。

るハプニングもあった。車では山のような勝手にはいかないらしい。天気は良く暑いくらいの日射しだったが、山の方は薄もやで見通しはあまり良くない。それでも途中は大した渋滞もなく、12時に無事箱館山スキー場に到着。スキー場の中の急坂道を走って立入禁止柵の前に駐車、柵に沿って箱館山方面に向かう。GPS や地図を頼りに林道や尾根の踏み跡らしき道を通って無事に箱館山山頂(547.0m)到着。所要時間、約20分。残念ながら見晴は木が生い茂っており琵琶湖方面の東側を除き全くダメ。しかし標高の高さの割に下界の運動会のマイクの声は直ぐ近くに聞こえた。記念写真を撮り、昼食。

饗庭野(あいばの)基線は、全国14基線のうち3番目にリストアップされている。8点の一等三角点のうち饗庭野東と西の2点は防衛省基地内にあり立入ができない。残り6つの内、遠く離れた2つを除いた4つを探索しようというもの。



さて、各自が深夜バス、新幹線などの手段で三々五々大津駅に集合したあと、駅レンタカーに7人が乗り込み、近藤さんの運転でまずは北の方角に向かう。途中でバイパスに乗ろうとしたが、限られたICでしか合流できず狭い住宅地をあちこちに迷走す



箱館山(点名:羽子立山) 三角点 547.0m

次に向かったのは阿弥陀山。これも登山道があるかどうかもわからず、取りあえず山を巻いている林道に入る。しばらく走って赤テープを見つけたが明確でなく先まで行くも道らしきも

のは見つからず、赤テープのついた踏み跡を行くことに。そしてこれが正解だった。地形を判断しこの道に違いないと好判断するところはさすが地理クラブである。林道から赤テープの標識を頼りに急坂を登ること 40 分、15 時ちょうどに阿弥陀山山頂 (453.6m) 到着。こちらも南北に長い山頂を持ち、良い展望とは言えなかった。



阿弥陀山三角点 453.6m

これで今日の予定でむずかしいところは全て踏破し、残るは琵琶湖湖岸の深溝村 (87.0m) だけである。気も楽になり車を走らせること約 20 分ほどで目的地に到着。別荘地のような住宅の塀の直ぐ横にそれは設置されていた。



深溝村三角点 87.0m

今日の宿泊は鶴田さんがネットで探して見つけてくれた民宿「舞子屋」である。宿に着くと早速、近くの「比良とびあ」という日帰り天然温泉に宿の車で送ってもらう。温泉は土曜とあってハイキング客などで結構混み合っていた。湯から上がったものの迎えの車が来るまで結構時間があつたので、休憩室で各自生ビールなどを飲む。帰りの車は定員オーバーも構わずギュー詰めで戻った。さあ近江牛のすき焼きである。これが予想を遙かに超えて実に美味かった。すき焼きはせつかなので醤油と砂糖で肉を先に焼いてそれから野菜を入れるという関西方式で食してもらった。ビールの後は持ち込んだ 2 種類の地酒で大いに盛り上がる夕食となった。普通なら余る酒も不足になるほど。夜中には強風が吹き荒れ、気温が下がった。木枯らし一号となったようだ。翌朝は寒さと強風の中近くの中浜ビーチ、近江舞子内湖を散策、今日登る予定の比良の山並みを眺めた。



民宿から内湖と比良山 (左端が打見山)

強風で心配したが、びわ湖バレイのロープウェイは予定通り運行した。山頂駅の打見山からスキー場のゲレンデを下って上り、

蓬莱山 (1173.9m) にこの日一番で到着。のんびりと景色を楽しんだ…という訳にはいかず、記念写真も立っているのがやっとなという程の強風の中、琵琶湖の絶景もそこそこに引き返した。



蓬莱山(点名：比良ヶ岳)三角点 1173.9m(上)と山頂からの琵琶湖対岸正面に三上山(下)

このとき琵琶湖の対岸に、近江富士が美しく立っているのが印象的で、半分冗談で「今からあそこに登りませんか？」と北野代表を初め女性も含め何人かに声をかけたら、皆がみな「いいね」というではないか。この融通性というかパイオニア精神というか、声をかけたこちらの方が驚いた。今井さんが昔、草津に住んでいて、登山を計画したことがあり「それ程大したことはないはず」だけを頼りに近江富士 (三上山 432m) に向かった。意外に味の濃いラーメン屋で昼食を済ませ、登山口からちょうど 1 時間で山頂に着いた。琵琶湖の対岸には比叡山を初め比良の山並みが続き、見事な景色だった。



近江富士(三上山)山頂 三角点はない

あとがき

二週間後、大学の同窓会で再び京都に。京都市内で散々飲み明かした翌日、雨の中を比叡山に。バス待ち 15 分の間に駐車場から歩いて比叡山の 1 等三角点 (大比叡 848.1m) に行ってきました。これで短時間の間に 5 個もの一等三角点を訪れたこととなります。充実した基線探索の旅とおまけの近江富士登山を企画、同行の皆さんに感謝いたします。そして新幹線の時間が迫っていた私のために大津までの帰路、車を急いで走らせて頂いた近藤さん、ありがとうございました。あの日無事に京都に着いたら、懲りずに再びうどん屋経由の新幹線乗車でした。



大比叡 (点名: 比叡山) 三角点 848.1m

日程: 10月24日(土)~25日(日)

メンバー: 鶴田、片野、高田、北野、今井、近藤、渡辺 (7名)

タイム記録:

箱館山 (547.0m) : 12:00 スキー場出発 山頂 12:20~13:00 13:20 帰着  
 阿弥陀山 (453.6m) : 14:20 林道出発 山頂 15:00~15:05 15:20 帰着  
 深溝村 (87.0m) : 15:50 到着  
 蓬萊山 (1173.9m) : 打見山山頂駅 9:05 出発 山頂 9:30~9:40 10:20  
 ロープウェイ乗車  
 近江富士 (三上山 432m) : 12:10 三上神社登山口出発 山頂 13:10~13:20  
 14:10 帰着

記録・報告: 渡辺

行ってきました

関東ふれあいの道・GPS山行 関東ふれあいの道 東京都

富士見のみち

北野 忠彦

2015年11月21日 晴れのち曇り

参加者: 今井、大西、片野、鶴田、北野

関東ふれあいの道の東京都の最後のコース、富士見のみちの西半分、上川乗り-浅間峠-三国峠-生藤山を歩いた。

このコースは2012年2月18日に、多摩川・相模川分水界で歩いたコースのちょうど逆になる。

久しぶりの晴れもあってか、武蔵五日市駅前には登山者の群れでいっぱい。9時発の数馬行きのバスも大增発で5台位出たであろうか。上川乗で降りたのはわれわれ5名以外は一人だけだった。

9:55 歩きだす。檜原街道からすぐ左、甲武トンネルへの道を上がり、右折して少し先のやや広がった所、左手に登山道の標識がある。昨日の雨でびしょびしょになった落ち葉の上をヒノキ林の中のやや急登をひたすら上がる。途中小さな祠があったが前回のときは下山途中でもあり全く気づかなかった。やや傾斜が緩くなり、ミズナラが現れ、明るくなってきた所で小憩(10:55-11:05) GPSは800mあたりを指していた。ここからカエデの交るトラバース気味の道を上がるとすぐ浅間峠だった(11:15)

前回、分水界で歩いた稜線を右手に見ながら小さなピークの腹をまく。ドロドロ道の落ち葉の中で歩きにくい。歩きにくい木の階段などが現れて登り切ると狭いピークの熊倉山に出た。ベンチが四



つほどある。右手には七合目あたりまで雪のついた富士山が見える。ここで昼食(12:10-12:40)。やや進むと軍刀利(ぐんたり)神社元社の大きな鳥居と小さな祠のある広いピークに20人ほどの登山者がいた。この先一登りで三国峠(三国山)そしてすぐ先が本コース撮影ポイントの生藤山だ。二等三角点の生藤山でポイント撮影(13:20-13:30)。磁針E8°、35° 40' 20.8"、139° 07' 56.4"



三国山山頂

下り始めて間もなく、左手の道標が右鋭角に緯度の下る方向を指している。トラバース気味にしばらく下ると右手に軍刀利神社の道標が出る。さっきの元社へ向かう道だろう。

さらに下り、ヒノキ林がきれかかる頃、小さな沢を超えると間もなく、軍刀利神社奥社の屋根が現れカツラの巨木が目飛び込む。石段を少し下った先が軍刀利神社。急な石段を下り車道をしばらく下り井戸のバス停に着いた(14:55)。15:30のバスで上野原へ。八王子の磯村水産で反省会、今日の日を終えた。

(北野記)

AGCレポート vol-55 2015年12月10日発行  
 発行: 日本山岳会・山岳地理クラブ (代表: 北野忠彦)  
 〒102-0081 東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会 気付  
 TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441  
 編集担当: 近藤 E-mail: hikarikon@nifty.com